

[巡検会報告]

俵山の輝石・角閃石標本採集会

渡辺一徳

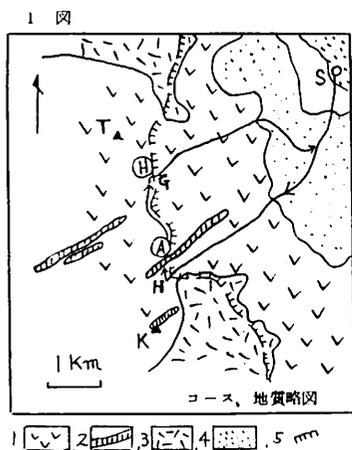
5月18日に行なわれました「輝石、角閃石採集会」の報告を、編集係の先生より依頼されましたので、当日配布致しました資料を主に紹介して、報告にかえさせて載せたいと思います。

当日は交通センター集合、定期バスにて阿蘇下田まで、ここで始めて参加者数が20数名であることがわかり、先ず輝石を産する本谷越へ向つた。途中で白川の岸に露出する久木野層（カルデラ内の湖水堆積物）、カルデラ内壁に露出する先阿蘇火山岩（輝石安山岩）の成層状態などを観察。途中道を間違えたりしたが、なんとか谷頭近くの北側の輝石の産地に着いた。ここは角閃石安山岩岩脈の貫入により風化の促進された輝石安山岩（先阿蘇

火山岩類）の中のもの分離したものである（松本幡郎による）。残念ながら風が強く危険な為、十分な採集が出来なかつた。これより約2 Km北の角閃石産地である護王峠までカルデラ縁に沿つて行き、採集。この角閃石結晶は松本幡郎（1954）によれば、俵山溶岩の下位より2番目のものの風化部に岩より分離したものとのことである。

輝石、角閃石共に、峠（本谷越、護王峠）の北方100~200 mの、植生のハゲた場所であり、結晶が地面に多量に見られるので採集はそれを拾うだけである。

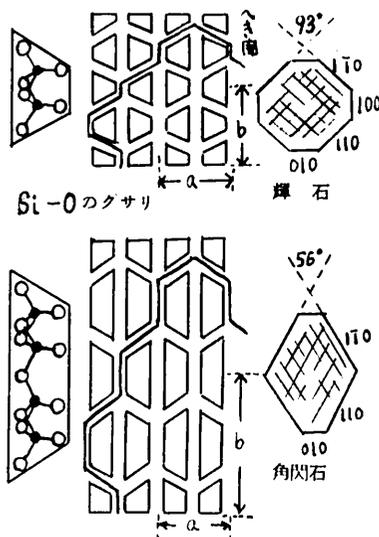
このルートでは一部道が悪く時に本谷越へ登る道を間違えないように注意しなければならない



第1図説明

1 ; 先阿蘇火山岩類 2 ; 岩脈 3 ; 阿蘇火砕流堆積物 4 ; 崖錐、ローム 5 ; カルデラ縁 S ; 下田 H ; 本谷越 G ; 護王峠 T ; 俵山 K ; 冠岳 A ; 輝石産地 B ; 角閃石産地（松本幡郎 1963原図）

第2図

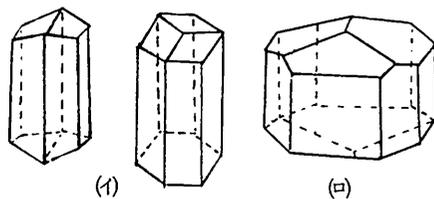


〔第2図〕

輝石、角閃石のどちらもへき開面は(110)と(110)であるが、軸率がちがうために、2

つの面の間の角は輝石では 93° 、角閃石では 56° である。図は C 軸に直角な断面であり、左側はその結晶格子の断面の模式図である。輝石の骨組を作っているのは、Si-O の一重鎖であるが、角閃石の場合は 2 重の鎖である。へき開はイオン間の結合力の最も弱い部分で、おこるから太線の方にへき開が生ずる。
 (高校地学講義より)

第 3 図



第 3 図説明

- (i) 護王峠産角閃石 (単斜晶系)
 - (ii) 本谷越産普通輝石 (単斜輝石)
- (千藤忠昌 1965 原図)